山形県立産業技術短期大学校（庄内校）の業務実績評価（評価対象：令和5年度）

大項目	小項目	庄内校の状況	自己評価	外部評価	
			4適切　3概ね適切　２一部改善を要する　１改善を要する		
1　教育理念・目標の確立					
1-1	教育の基本理念を確立し、明示している	産業構造の高度化、多様化、情報化に対応する豊かな感性と創造性を備えた実践技術者・ビジネスパーソンを育成確保し、本県、とりわけ庄内地域の技術力の向上と産業界の振興に貢献することを基本理念に掲げ、「ものづくりのセンスと高度な技術を身につけた実践的技術者の育成」「優れた経営センスを持ったエネルギッシュなビジネスパーソンの育成」「地域産業の発展を担う人材の育成」に取り組んでいる。	3	3	○建学の精神を踏まえた基本理念が確立されており、学生便覧、パンフレット等の発行物にも冒頭にしっかりと明示してある。
1-2	教育目標を確立し、明示している	産業構造の変化や技術革新に対応できる”高度な専門技術を有し、創造力に富み、実践力のある産業人”の育成を教育目標に掲げている。 また、学科ごとの教育目標も定め、目指すべき技術者像を示し、人材育成に取り組んでいる。	3	3	○建学の精神を踏まえた基本理念が確立されており、学生便覧、パンフレット等の発行物にも冒頭にしっかりと明示してある。 ○学生便覧の項目はできる限り本校と同じ項目立ての方が、分かりやすのではないか。
1-3	アドミッションポリシー（入学者受入れ方針）を定め、明示している	求める学生像について学科ごとに具体的に示している。	3	2	○「求める学生像」についての記載は、アドミッション・ポリシーから、高等学校等で習得しておくことが期待される能力等、そして、それらの獲得状況を判断するための入試科目や入試方法の設定へと構成されるのが望ましい。 ○アドミッションポリシーが「．．．を学びたい人」では，産業界から実践的人材の育成を期待されている貴校の社会的立場に鑑みて、人材像が不明確ではないか。 ○アドミッションポリシーと項目立てたうえで、求める学生像を明記した方が分かりやすい。
2　体系的な訓練課程の編成					
2-1	育成する人材像と教育の重点事項を定め、明示している	学科ごとに育成する人材像を定め、身に着ける知識・技能を具体的に示している。また、技術面のみならず、課題発見力や課題解決力を身に付け、探究心を持ちチャレンジしていく人材の育成に努めている。	3	3	○育成する人材像と教育の重点事項は明確かつ詳細に取りまとめられており、その概要を学生便覧に示し、教科計画ではさらに踏み込んだ教育指導方針や具体的なアプローチが明示されている。 ○「自分がどうなりたい，何を習得したい」という個人目線の人材よりも，「技術で社会に貢献する」という広い視野の人材を育成しているのではないか。
2-2	体系的に訓練課程を編成し、明示している	シラバスにおいて、履修時期、学ぶべき内容を示し、体系的に訓練を行っている。	3	3	○学科ごとに細やかに整理された訓練課程が学科・実技別に編成されており、いずれも履修案内に明示されている。 ○体系的な訓練課程の編成は、カリキュラムマップ等によって明示されるのが望ましい。 ○カリキュラムチャートの作成とシラバスの充実が必要である。
2-3	学習成果を定め、明示している	シラバスにおいて科目ごとの授業概要及び教育の目的と達成目標を示している。また、教科計画の学科の教育目標において学習成果を示している。	3	3	○個々の学科・科目ごとに授業概要及び教育の目的と達成目標を示してある。学習成果については到達すべき目標が具体的に明示されており、習得すべきスキルが十分に理解できる。 ○学習の成果として何ができるようになるのか記載のない学科もあるので、記述するのが望ましい。 ○項目が詳細となれば、それに従って自由度は少なくなる。授業の硬直化・定型化を招くリスクはあるため、技術の進歩社会の変化に即して適宜内容の見直しとアップデートは必要である。
2-4	修了認定方針を定め、明示している	履修規程、成績評価及びGPA制度に関する規程を定め、履修規程に履修の認定、修了の認定に関する取り扱いを示している。	4	4	○いずれも詳細に学生便覧に明示されている。

大項目	小項目	庄内校の状況	自己評価	外部評価	
			4適切　3概ね適切　２一部改善を要する　１改善を要する		
3　授業科目における訓練目標、授業の内容と方法、訓練計画及び成績評価基準					
3－1	履修科目、訓練目標、授業科目の内容と方法を明示している	シラバスにより、履修科目における目的・到達目標及び授業計画と授業の方法を示している。	3	3	○シラバスの授業計画では，全体が何回で構成されているのか，その各回で何をどこまで学ぶのかなどより詳細に具体的教育内容が一望できるように作成すべきである。
3－2	授業計画を明示している	教科計画及びシラバスにより、履修概要、教科時間等を示している。	3	3	○授業計画は、教科の計画にのっとり、各訓練時間の回ごとの計画が明示されるのが望ましい。
3－3	成績評価基準を明示している	履修規程、成績評価及びGPA制度に関する規程に成績評価基準を明記するとともに、シラバスに科目ごとの成績評価方法を示している。	3	3	○授業への参加度を成績評価の方法に加えることは問題ないが、出席をもって参加度の評価とするのは望ましくない。発言の頻度や内容、実習での参加の態度などについて、基準を設けて評価するのが望ましい。 ○評価方法については，課題提出が何回程度，試験が何回でそれらの評価比率が何%ずつかなど詳細な記載と実施が必要である。出席点は評価に入れるべきではない。達成度評価を基本とし，出席率が基準に満たない者は別途不可とすべきである。
4　授業科目の適切な設計・実施・評価					
4－1	授業科目は、必要な能力を育成するよう編成・実施している	職業能力開発促進法施行規則に定められた標準的な教科や時間数等を基に、教科計画により履修すべき科目と時期を編成し、シラバスに則り授業を実施している。	3	3	○シラバスの記載が簡潔すぎるため、「シラバスに則って」という実施部分の評価の精度が下がる懸念がある。
4－2	授業実施内容を評価する仕組みをもっている	前期・後期ごとに電子アンケート方式により学生による授業アンケートを実施し、各授業の担当教員、担当学科の主任教員及び管理職が結果を閲覧することで、個人、学科へのフィードバック、共有し、必要な改善につなげている。	3	3	○アンケート結果は学生にフィードバックしてはどうか。
5　適正かつ厳正な成績評価及び単位認定					
5－1	成績評価を適正かつ厳格に行っている	履修規程、成績評価及びGPA制度に関する規程に則り担当教員が評価し、学科ごと成績評価担当教員がとりまとめ科内でチェック、科横断の進級判定会議で学科間でチェック、卒業判定会議で総合的なチェックを行い評価の正確性と客観性を確保している。	4	4	○学科横断の判定会議や卒業判定会議による確認も公正かつ常識的である。 ○成績評価表（レポート、テスト点などの詳細集計表）はFDとして教員相互で共有すべきではないか（FD目的の場合には学生が特定できないようにする）。
5－2	単位認定を適正かつ厳格に行っている	履修規程、成績評価及びGPA制度に関する規程に則り、原則として授業時間の80%以上出席し、期末の定期試験等で成績基準を満たした場合に合格とし単位を認定している。	4	3	○この基準によれば，出席点を与える根拠はないので出席点を廃止すべきである。 ○「総合的に判断（評価）する」というのは達成度評価として曖昧すぎる。提出課題何回分をXX%，定期試験成績YY%と明確にすべきである。受講態度という評価項目も高等教育では排除すべきである。評価基準の種類・方法については個々の教員の裁量は制限されるべきである。認定基準を達成度評価のみ絞りこれを厳格に運用すべきである（教育の質の保証）。
5－3	学習成果の獲得状況を量的・質的データを用いて測定する仕組みをもっている	ＧPA制度に基づき測定する仕組みを導入し、ＧPAに関するデータを教員に提供し、適切な学習指導に反映させている。また、学生、保護者にも期ごとに成績を提供し透明性を確保している。 職業能力開発促進法に基づく技能照査を実施し、必要な技能、知識の習得状況を検証し、得点が60%以上の者を合格とし技能士補と称することを可能としている。（2年生を対象に卒業前1か月内に実施）	3	3	○GPA制度とそのデータ活用・フィードバックは学習指導上有効と評価できる。 ○技能士補認定についても学習の動機付けになるのではないか。

大項目	小項目	庄内校の状況	自己評価	外部評価	
			4適切　3概ね適切　２一部改善を要する　１改善を要する		
6　教育資源					
6－1	教員は適切に配置され適切に教育・研究を行っている	各科の定員に応じた教員を配置（学生数20人ー6人）することにより、在学生に対しては教員1人に対し学生3.8人ときめ細やかな少人数教育を実践している。（R5教員数１８人） 退職等で欠員が生じる場合は、計画的に教員募集（県職員）を行い欠員が生じないよう採用している。（R5　1名採用） 学校全体の教員研修計画を立て、外部研修への参加により自己研鑽を行っているほか、県や関係機関の主催する研修への参加も促進している。	3	3	○S(生徒数)/T（教師数）が小さければ質が高いというわけではない。S/T比が大きくても質が高い教育を追求すべきである。運営・経営の効率化も視野に入れるべきではないか。 ○欠員補充という考え方は改革の妨げになる場合もあるのではないか。 ○現状の体制はおおむね適正と思われるが、地方における人材難は深刻であり質と量を維持すべき継続的な取組みが求められる。教員の求人を意識した広報活動も必要ではないか。
6－2	教育に必要な施設・設備が整備されている	校地・校舎の面積は職業能力開発促進法の基準を満たし、適切な面積の運動場、図書館、体育館を有している。 施設・設備は施設整備計画に基づき、優先順位をつけて計画的な更新に努めている。 R5整備事例：学内ネットワーク設備更新、パーソナルコンピュータ更新（生産）、電子計測機器更新（生産）、ビジネス実習室システム更新（ＩT会計）等	3	3	
7　学生支援					
7－1	学生の生活支援を適切に行っている	経済的に困難な学生に対し、校内掲示等による授業料の減免や奨学金制度の周知及び的確な運用に努めている。 学生による実行委員会を組織し、学生主体で運営している体育祭、飛庄祭への指導・協力を行っている。 カウンセラーを配置し、必要に応じ学生相談を実施している。（R5　延べ１回、延べ１人） 学校ホームページ（学生ポータルサイト）に相談窓口「学生なんでもホットライン」を設け、一人で悩みを抱えず気軽に相談できるようにしている。 駐車場、駐輪場を設置し、通学に対する利便性を確保している。 食堂は設置されていないが、昼食を持参しない学生のために昼食のあっせんを行っている。	3	3	○概ね十分な配慮を持った取り組みがなされているが、経済的に困難な学生に対しては適宜親身で柔軟な支援が求められる。
7－2	学生の進路支援を適切に行っている	１年時に就職の手引きを配布し、就職への意識付けを高めている。また、担任の教員が学生と個人面談を行うなど、卒業後の進路について助言・指導を行っている。 授業の中で計８回（１年時の５月から２年時の７月まで）の就活講座を行い、就職活動への心構えや適性試験、個人面談、面接演習など、体系的に就職支援を行っている。 教職員による就職活動委員会を毎月開催し、就職内定状況、就職支援状況等の情報を共有するとともに、配慮が必要な学生については組織的な支援に努めている。 学内に求人票を貼りだし、紹介している。（R5実績　求人件数133件） 山形県主催の新企業懇話会による企業説明会の当校での実施（参加企業8社、参加学生26人）や、庄内地区で実施している庄内就職説明会への学生の参加を働きかけ、対面やWEBによる企業情報の収集など、就職に向けた意識醸成、就職希望先の絞り込みを支援している。 企業実習(11月・１月）による就業体験の機会を創出している。 山形大学工学部への編入学希望者を対象に対策講座を開設し、進学を支援している。（10月～）（数学・TOEIC）	3	3	○建学の精神を活かすべく地元企業の努力も必要である。 ○大学編入への取組みは学生の可能性を広げ、学習に対する動機づけになるとともに本学の価値、位置づけを高める有効な取組みである。

大項目	小項目	庄内校の状況	自己評価	外部評価	
				4適切　3概ね適切　２一部改善を要する　１改善を要する	
7－3	学生の技術・技能の向上、資格取得を支援するとともに、褒賞制度を設けている	○技能五輪、若者ものづくり競技大会等各種技能競技会への出場を促進し、参加している。 【R5実績】 若者ものづくり競技大会（８月）情報通信システム科１名出場 技能五輪全国大会職種選考会（８月）情報通信システム科１名出場 ○各学科で取得を目指す各種資格の取得を促進している。また、資格取得試験の会場が庄内地域以外の場合、受験する学生に対し交通費の支援を行っている。（R5　延べ４名） 【R5実績（主なもの）】 　機械検査作業３級　４名、シーケンス制御作業３級　１名 　基本情報技術者　３名、ＩＴパスポート　４名 　日商簿記検定２級　５名、メディカルクラーク　２名 　日商ＰＣ検定２級（文書作成、データ活用、プレゼン資料作成）　１３名 ○成績優秀者、模範・活躍者への褒賞制度を設け、学生の学習意欲向上に努めている。 【R5実績】 知事賞１名・学校長賞２名・教育振興会長賞３名	3	3	○意欲的な取り組みを大いに評価できる。
7－4	各種団体等と連携し学生支援を行っている	県内企業による学校の支援組織である教育振興会から、学生の各種競技大会への参加や校外学習、資格取得等に係る交通費や地域でのイベント等に参加する学生に対する支援を受けている。 同窓会から、卒業生に対する記念品の贈呈を受けている。 大学コンソーシアムやまがたと連携し学生支援事業、単位互換事業の紹介等を行っている。 ハローワーク等就職支援機関と連携し学生の就職活動支援を行っている。	3	3	○適切な連携で支援が行われている。概ね常識的といえる。
8　産業界との連携（開かれた学校づくりの推進）					
8－1	企業（団体）との連携を推進している	学生の各種競技大会への参加や校外学習、資格取得等に係る交通費や地域でのイベント等に参加する学生に対し、教育振興会から支援を受けている。 企業の第一線で活躍している社員を講師として招聘し、企業における事例等をとおし、学生の修学意識向上を図っている。（R5　15社16回） 公開講座を開催し企業のリスキリングを支援している。（R5　18講座、延べ29人受講） 企業との共同研究を実施している。（R5　１件）	3	3	○企業からの支援が単なる資金援助にとどまらず講師派遣等ソフト面にまで及んでいるのは評価できる。 ○連携という意味では本学からも公開講座や共同研究の実施等（企業・団体からの一方向からの支援ではなく）双方向の取り組みとなっているのは評価できる。本学のプレゼンスの向上にも寄与しているものと思われる。アウトプットの余力の範囲ではあるが継続的な取組みを期待したい。
8－2	企業との共同研究等を推進している	企業との共同研究を実施している。（R5　１件）	2	2	○昨年度の実績が１件にとどまっており、本学のあるべき姿として研究開発機能の強化にどの程度力点を置くのか議論も必要ではないか（学術研究/地域貢献/広報宣伝）。
9　地域連携、地域貢献（開かれた学校づくりの推進）					
9－1	高校との連携を推進している	教員による高校への出前授業・連携授業等を実施している。（R5　５校20回） 酒田光陵高校産業教育連携協議会の委員就任し、委員会に参加し助言等を行っている。 専任の高校連携コーディネーターを１名配置し、定期的な高校訪問、高校における学校説明会への参加、学校訪問の受入れ等により、高校との関係性を深めている。	3	3	○産業技術短大ならではの取り組みとして評価できる。少子化の進展や若者の県外志向が強まる中で重要度は増している。
9－2	高等教育機関等との連携を推進している	大学コンソーシアム、やまがた社会共創プラットフォームに加入し連携事業を実施している。（合同学校説明会、やまがた進学合同フェスタ、SDFD研修等）	3	3	

大項目	小項目	庄内校の状況	自己評価	外部評価	
			4適切　3概ね適切　２一部改善を要する　１改善を要する		
9－3	民間団体、行政、地域等と連携している	公開講座を開催し企業のリスキリングを支援している。（R5　18講座、延べ29人受講） 公開講座の実施にあたっては、地元企業へのアンケートを実施するなど、ニーズに合った講座の選定に努めている。 地域に開かれた学校として、小中学生を対象とした体験授業の開催や地域イベント等へ参加している。 　中学生向けの体験授業の開催（10月　参加者15名） 　夏休みの小学生向け体験教室の開催（８月　参加者29組） 　地域イベント（中村ものつくり塾、産業まつり等）への協力 地域に貢献できる施設として、学校施設を開放している。 　体育館のモンテディオ・アランマーレへの開放、駐車場の酒田花火大会駐車場としての利用等　（通年）	3	3	○裾野の広い地域貢献活動を行っており、本学の啓蒙やプレゼンス向上に寄与するものと期待できる。一方でこの活動が、どのくらい地域に認知されているかは常に確認が必要である。 ○卒業生のUターン希望者の就業相談・情報提供はできないか。
10　入学生確保・情報発信					
10－1	志願者確保のための効果的な広報を行っている	学校・各科の特長や特色（少人数教育、最先端の機器・実務経験豊かな教員、就職率100%、低学費、各分野の実践技術者育成　等）について、以下の取組みをとおし学校のPRに努めている。 　高校教員対象学校説明会（６月（3年次担任向け） 14校） 　　（10月（2年次担任向け） 10校） 　小・中・高校の学校訪問随時受入れ(R5　８校） 　オープンキャンパス（７月25人、10月19人、３月18人参加） 大学コンソーシアム等で実施する大学説明会、高校の進路説明会、WAKU WAKU WORKへの参加、高校連携コーディネーターによる学校訪問など、当校の魅力・進学するメリット等をPRしている。	3	3	○活動内容としては十分に充実しており、一定の評価ができる。取組みの効果の検証と方法の検討については継続的な検討が重要である。 ○電子メディア（Web/SNS)の活用強化や若手Uターン志望者のリスキリングの受け皿としての都市部向け広報等もあってよい（もちろん県内のリスキリングの受け皿としても）。
10－2	知名度向上のため学校全般の情報発信を強化して行っている	ホームページ、X（旧Twitter）、県庁プレスリリース、庄内総合支庁記者懇談会による適時の広報、イベントや卒業研究発表会等の新聞掲載の働きかけ、県広報媒体の積極利用（県政テレビ番組、広報誌等）、地元新聞社への広告掲載、地域コミュニティセンターとの連携など、情報発信に努めている。 専任の高校連携コーディネーターが、定期的に高校を訪問し、高校生の進路選択先の一つとなるよう、必要な情報の提供や進路指導担当教員との情報交換を行っている。	2	2	○活動内容としては十分に充実しており、一定の評価ができる。取組みの効果の検証と方法の検討については継続的な検討が重要である。 ○庄内校ならではの特色が見えない感がある。 ○電子メディア（Web/SNS)の活用強化や若手Uターン志望者のリスキリングの受け皿としての都市部向け広報等もあってよい（もちろん県内のリスキリングの受け皿としても）。

《評価指標》

	評価指標	評価指標の観点	R5の目標	R5の実績	外部評価
1	総訓練時間数 ※R5の実績はR5入学生の１年次実績と２年次予定時間の合計	教育訓練が規定に即して行われているか(R５入学生の総訓練時間数（見込み）)	2,800時間以上	生 2941 h 情 2921 h 会 2813 h	○各教科とも目標時間は達成できている。 ○シラバスに詳しい学習項目と使用時間（回数）を明記した上で、それらが確実に実行されたかどうか検証する仕組みがあることが望ましい。2800時間の実質の内容が常にモニターできる必要がある（質保証）。 大学への編入時にはシラバスを参考に単位の互換性を検討するので，この観点からもシラバスの充実は重要である。
2	就職希望者に対する就職率 （県職業能力開発計画目標値）	学生の希望に沿った支援ができているか（R6.3月卒業生の就職希望者の就職率）	100%	97%	○ほぼ達成。本学が訴求する最大の強みだけに継続的な努力を求める。
3	県内就職率 （県職業能力開発計画目標値）	県内産業界に人材を輩出できているか（R6.3月卒業生の就職者のうち県内就職率）	90%	84%	○ほぼ達成。本学建学の目的でもあり、継続的な努力を求める。